



学校だより

令和4年8月29日
横浜市立仏向小学校

9月号

好きをとことん

校長 大嶋 智子

夏休みが終わり、子どもたちの元気な声と笑顔が学校に戻ってきました。事件事故の連絡が入らず、仏向小の皆さんが安全に休み明けを迎えられたことを心から嬉しく思っています。

3年ぶりに行動制限のなかった夏休み。感染防止を気づかいながら遠くに出かけたり、貴重な体験をしたり、家庭でのんびり〇〇したり・・・と、それぞれの夏休みを楽しんだことでしょう。

私はこの夏、水族館で黄色のシャツを着た一人の小学生に目を奪われました。イルカショープールの最前列は水しぶきがかかるため、座るお客さんが少ない場所です。その子は、ショーが始まる前から、最前列でイルカを見つめ、飼育員の動きに合わせて移動したり、自分から質問したりしているのです。ショーが始まると、前のめりで夢中になって拍手している姿が目に入りました。「すごく好きなんだなあ」と思うと、その子の感動が伝わってくるようでした。

その後、時間があつたので、私は次の回のイルカショーをもう一度観ることにしました。すると、どうでしょう、先ほどの黄色のシャツの小学生がまた最前列で観ているのです。「すごい子だなあ、とことん好きなんだなあ、これからどんなふう生きていくのだろう・・・」と、将来への想像が膨らみました。



“好きをとことん”深めた小学生時代の経験や努力が、その後の人生の土台になっていることを、大人になって思い起こすことはありませんか。

7月にプロに転向したフィギュアスケートの羽生結弦さんのインタビューが、新聞に掲載されました。“9歳の自分”を振り返りながら、子どもたちへエールを送った記事です。「一気に全部跳べるようになった9歳 努力の結果を感じられたからこそ好きに」そして、「つまらない練習がいずれ花を咲かせる土になる」と。記事を読んで、私自身も小学校3年の時の担任の先生に頑張りを褒めてもらったことが、そうであったと思い出しました。

得意なことがある子は自己肯定感も高いと言われます。ただ、自己肯定感自分だけではなかなか気付かせません。周囲からの「すごい!」「頑張ったね!」の言葉で価値づけられてこそ自身の得意になり、自信となり、自己肯定感が上がっていくというものです。“好きをとことん”求める姿は必ずや、その後の生きる力、乗り越える力の土台となっていくでしょう。

子どもたちの成長をしっかり支え、「好き」に出逢える教育をこれからも全職員と進めてまいります。

運動会「たかのごオリンピック」の開催方法について(予告) 10月22日(土)午前開催 予定

【児童】3ブロック(中・低・高)に分かれて、2学年ずつ校庭に出て競技等を行います。
その他の学年は、教室からオンラインで視聴・応援します。

【保護者】お子さんのブロックの時間のみ、各家庭2名までの参観とさせていただきます。
感染状況により変更することがあります。詳細については、10月上旬頃にご案内します。

「横浜市立学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に則り、感染防止に努めながら練習および安全な開催をめざしてまいります。ご理解ご協力をお願いします。